

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	唐津市立大良小学校		C：やや不十分である D：不十分である
1 前年度 評価結果の概要	・学力向上、心の教育、特別支援教育等、職員が組織的に教育活動を進めることができおり、校内評価の最終評価において、A評価が8項目中7項目あった。関係者評価はすべてA評価だった。 ・前年度は校内研で取り組む教科を国語科と特別の教科道徳とした。児童が道徳の授業を好意的にとらえているとともに、保護者にも「学校は道徳・人権教育を行っている」と評価してもらった。今後も継続して心の教育にあたっていく。 ・安全教育に関して、交通安全教室を開いたり、下校指導を行ったりして、児童の安全に対する意識づけをした。大きな事故やけがもなく過ごした。引き続き危機管理意識を持ち、指導していく。 ・大好き良い子カードを活用しながら、児童が生活習慣を整えたり、ゲームや動画の視聴時間を自分でコントロールしたりできるように指導していく。		
2 学校教育目標	心豊かで 自他ともに大切に し 共に学び合う たくましい子どもの育成 ～かしこく、たくしく、たくましく～		

3 本年度の重点目標	○かしこい子ども	○たのしい子ども	○たのしい子ども	→ 三方向から ← 三方向へ	新たな活動に向かう 「心のバネ」
	よく見て、よく聴き、考えを持ち、伝え合う子	自分も周りの人も大切に 子ども	基本的生活習慣が整い、 元気と落ち着きのある子ども		※心のバネ…自己肯定感を土台に達成感や満足感のある活動を仕組み、それが次の新しい活動への興味・関心・指向性へとつながる心のはたらき

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者						
(1) 共通評価項目																
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価								
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言							
●学力の向上	○課題解決のため、めあて達成のための手段として、授業に伝え合う活動を取り入れる。	○「自分の意見や感想を発表することが楽しい」と感じる児童を70%以上にする。	・話し合い活動をすることで課題を解決したりめあてを達成したりする授業や発問を工夫する。 ・相手の意見をよく聞き、自分の意見と比べ、相互につながりのある発言ができるように支援・指導する。	B	・「自分の意見を発表したり、感想交流をしったりするのは好き」と回答した児童が92%で高学年は少ない。児童集会等では積極的に発言をしている。授業で、友達と意見を交わす中で考えが深まったり、違う考えを聞いて自分の考えを見直ししたりする機会を増やす。 ・今後はさらに話し合い活動が活性化するように発問を工夫し、感想交流を好きではないとしている児童が話し合いの楽しさを味わえるようにしていきたい。	B	・「授業が分かる」「授業が楽しい」と回答した児童が80%以上だが、「考えを発表したり、感想交流をしたりするのは好き」と回答した児童は59%にとどまる。前回より向上はあったものの、目標の70%には届いていない。授業のめあてが達成されるための話し合い活動がうまく機能していなかったと考える。しかし児童は、近頃の席の友達と感想や質問をお互いに交流することはできており、今後は新しい環境のもと、さらに全体に発信できるような支援が必要である。	B	・少人数での学習をいかして、先生方が個に応じた細やかな指導をしている。 ・家では、ゲームや動画視聴の時間が長く、本をほぼ読まない。							
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童の割合を90%以上にする。								・道徳の時間にも「伝え合う活動」を積極的に取り入れ、多様な考えを認め合い、豊かな心が育つよううにして支援、指導する。 ・年に1回「ふれあい道徳」を実施し、授業を地域や保護者に公開することで、連携して道徳的な心情を育てていく。	A	・「道徳や人を大切にする学習ではしっかり話を聞いて考えている」と回答した児童が82%でおおむねできている。全校で人権集会にも取り組んでおり、友達を大切にする気持ちや多様な考え方を認める心は確実に育ってきている。 ・保護者も「学校は道徳や人権教育ができて」と70%が回答しており、公開授業などから理解を深めてもらっていると感じている。	A	・「道徳や人を大切にする学習ではしっかり話を聞いて考えている」と回答した児童は89%で、前回より向上した。全校で人権集会に取り組みで、縦割り活動や総合的な学習でお互いを認め合い、協力する活動に計画的に取り組んできた成果だと思われる。保護者も「道徳や人権教育がきちんとなされている」に76%が肯定的な回答をされており、こちらも前回より向上している。	A	・交通指導の方やゲストティーチャーとして学校に行った方から、児童はよく挨拶をするとのこと。
	●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実								○「学校が楽しい」と感じる児童の割合を85%以上にする。	・児童の発達段階に応じたいじめ防止に関する授業を1回以上行う。 ・年間2回以上「学校生活アンケート」を実施し、早期発見、早期対応に向けて取り組む。	A	・これまで2回「学校生活アンケート」を実施した。ほとんどの児童が「学校が楽しい」と答え、目標を達成している。友達との関わりを「楽しい」と感じている児童が多数である。	A	・いじめに関するアンケートを2回実施した。年度初めに1件、いじめやいじめの恐れがあったが、すぐに事情を聞き、対応することで解消された。日頃から児童の観察、細やかな指導を行い、未然防止、早期解決に努めてきた。	A
●健康・体づくり	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあんなのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童の割合を85%以上にする ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童の割合を85%以上にする	・児童の資質・能力を伸ばす授業づくりに取り組むとともに、様々な体験活動を実施して、児童の豊かな心の成長を促す。 ・「より良い学校にするためのアンケート」を年2回以上行い、児童の自己有用感、自己達成感を把握し、指導に結び付ける。	B	・「先生たちは、一生懸命に勉強を教えたり、良い時にはほめ、悪い時には注意してくれていますか」が97%、「自分は大切にされていると思う」が79%、「夢や目標に向かって努力する」が86%と、学校が安心して学べる場として機能している。今後はさらに夢や目標の実現に向けてどう取り組むべきかを、児童に寄り添い考えていく。	A	・「先生たちは、一生懸命に勉強を教えたり、良い時にはほめ、悪い時には注意してくれていますか」が97%、「自分は大切にされていると思う」が97%、「夢や目標に向かって努力する」が86%と、学校が安心して学べる場として機能している。自己肯定感が高まるような取組、支援を行っている。	A	・大良小ならではの体験活動を経験することが、豊かな心を育くむ一因になっている。 ・先生方には児童のよい面や成長しているところに気付いてもらい、児童の励みになっている。							
	●望ましい生活習慣の形成	○「大好き良い子カード」の生活チェックの点数が85点以上の児童を80%以上にする。								・「大好き良い子カード」の自己評価などを参考に、月ごとに成長や高得点維持について賞賛していく。 ・ノーテレビ・ノーゲームデーを毎月1回設定し、結果を育友会と共有する。保護者への周知を行う。	B	・「大好き良い子カード」の生活チェックの点数が85点以上の児童は79%であった。85点以上を目指して指導を続けていく。 ・ノーテレビ・ノーゲームデーを毎月1回設定し、良い子カードで意識づけをしているが、家庭によって取組にばらつきがある。 ・委員会の掲示物や保健のお便りなどで、望ましい生活習慣の意識づけをしている。	B	・「大好き良い子カード」の生活チェックの点数が年間を通して85点以上の児童が約79%であった。年間より意識して頑張ろうとする児童が増えた。年間を通して70点以下が3%いたので、特に点数が低い児童への支援、呼びかけが必要である。 ・ノーテレビ・ノーゲームデーを毎月1回設定をしたが、取組にばらつきがあった。 ・委員会の掲示物や保健のお便りなどで、望ましい生活習慣の意識づけをしたことで、朝ごはんをしっかりと食べたり、外で遊ぶなどの児童が増えた。	B	・家庭でもけじめのある生活を送らせるようにする。時間を決める。ルールをきめる。手伝いごとをさせられるなど、親も態度ある態度で接していくかなければいけない。
	●「安全に関する資質・能力の育成」	○交通安全に気を付けていると答えた児童の割合を100%にする。								・下校指導において、登下校中の交通安全、日常の生活で安全に関する事項の意識づけを行う。 ・年度初めの交通安全教室と年度後期に次年度の通学に向けた安全教室を実施する。	A	・5月に交通安全教室を実施し、指導員さんを招いて自転車の乗り方について実際に乗って学習した。 ・集団下校の際に、車に気を付けることを繰り返し話をして意識づけした。月に1度、下校前に地区反省会を行い、自分たちの登下校の様子を振り返っている。	A	・集団下校の際に、車に気を付けることを繰り返し話をし話をして意識づけした。また、月に1度、下校前に地区反省会を行い、自分たちの登下校の様子を振り返らせたことで、事故に遭うことがなく、安全に登下校させることができた。	A	・一部の児童だが、自転車を使って交通安全教室ができたのは良かった。家に帰ってからや休日に自転車に乗っている児童をあまり見ない。 ・登下校中の事故がなくてよかった。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・金曜日を定時退勤日として設定し、呼びかけを行い、実践を促す。 ・業務を1人で抱え込むことがないようにサポート体制を作る。	B	・金曜日は定時退勤という意識づけはできているが、残務があるままだったり、月曜日まで持ちこたしたりしないよう呼び掛けている。	A	・統合を控えていることもあり、指導要録の完成の時期を早くした。あゆみを完成させる時期と重ならないようにした。	A	・先生になる人、なりたいと思う人が増えることが望ましい。 ・学校の環境整備に地域をあげて取り組むことで学校を支援してきた。							
●特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○教育活動や教室環境のUD化に努める教員の割合を90%以上にする。 ○特別支援教育に関する研修を年3回以上実施する。	・児童理解協議会を定期的に実施し、支援が必要な児童の把握、具体的支援について共通理解を図り、全員で実践する。 ・講師を招いての研修を行い、特別支援教育に関する専門性を身に付ける。	A	・学習につまずきが見られる児童については、家庭連絡を行い、保護者に現状を伝えた。今後、様子を見ながら、手立てを考えていく。 ・夏季休業中に全体研修を実施した。今後計画的に実施する。	A	・特別支援教育に関する研修を年3回実施することで、支援を要する児童への手立ての具体的な方策について考えを深めることができた。 ・児童理解協議会を実施することで、支援が必要な児童への具体的な手立て及びその後の変化について共通理解をし、今後の指導に生かすことができた。	A	・特別な支援を要する児童が増えているし、今後とも増えると考えられる。専門性を持って指導にあたってほしい。							
(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目																
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者						
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言							
○閉校、3校統合に向けた取組	○閉校、統合に向けた取組の推進	○閉校に向けた取組を確実に実施する。 ○安心して統合できるとする児童の割合を95%以上にする。	・閉校式に向けて、保護者、地域の方々との連携を図る。 ・統合に向けた内容のアンケートを実施し、実態把握をし、支援する。	B	・児童が安心して新しい学校に通学できるように、交流活動を実施している。 ・閉校準備委員会において、地域の方、育友会役員の方と情報共有を行い、記念誌づくりや閉校式開催の準備を進めている。	B	・統合に向けた児童への2回目のアンケートを実施した。不安に感じている部分については、全校朝会や帰りの話等で支援している。楽しみに感じている、不安に感じているは半数ずつだった。	B	・新しい学校で児童がどのように生活していくのか見守りたい。 ・バス通学での混乱がないように乗降者の様子に気を付けたい。							

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・小規模校、少人数集団の特性を生かし、個に応じた授業展開、課題解決学習に取り組むとともに、学級でも、全員が集まる場でも、自分の考えを伝え、協働して深め合う学習活動を行ってきた。発言を苦手に感じたり、恥ずかしいと思ったりする児童がいるが、ほとんどの児童が、指名されたら自分の考えを伝えることができるし、伝えようと努力する姿が見られる。 ・保護者、ゲストティーチャー、交通指導員の方をはじめ、すべての地域の方が、学校の教育活動に理解があり、協力的である。支持的な雰囲気の中、児童の優しく、豊かな心が育っている。 ・教育活動中、登下校時、休日を含め、交通事故、長期休みを要するけがなく、児童は、安全を意識して生活することできた。
----------------------------	---